

			検討部会での意見	推進計画での対応
WAB	麻生委員	第3章	公園利用者に草原をどう見せるか、草原景観を体験する仕組みをどう作っていくかについて第3章の基本方針に入れると良いので	シンポジウムにおける中村氏の基調講演も踏まえ、第3章の基本的な考え方に追加する。
WAB	猪俣委員	第1章	草原面積は牧野組合調査の数字で良いか。	現時点で明確に出せる数値の一例として牧野組合調査の数字を利用する。
WAB	今江座長	第3章	阿蘇の草原は自然にできたものではなく、「歴史文化遺産」であるということを明確に書かないといけない。	WCにおける「人のいとなみ」を踏まえるとい意見と調整する。
WAB	麻生委員	第4章	量の確保は空間的な量だけでは不十分。立地、配置といった空間設計的な内容も含めた表現を。	第4章の1(3)基本方針に、景観的に重要な場所を優先して検討とあり、当該表現で代表させることとする。
WAB	山内委員	第3章等	牧野組合の減少や有畜農家の激減への対策についても記述すべき。	環境省として直接的な対策をとることは不適切であると思われるため、会議中の説明のとおり、第4章の2(1)のように草原環境学習を通じた後継者の育成を目指す
WC	宮口委員		存在すること自体で価値がある牧野については、直接支払いの可能性に言及しておくなど。	本推進計画は、環境省が作成するものであることから、記載はしないこととする。全体構想作成時に入れていかなければならない事項である。
WC	坂元座長		関係機関の取り組みの全体が一目でみえるような図などがあるとわかりやすい。	関係機関の取り組みとの関係は、環境省が定めるのではなく、関係機関が集まった場で全体構想の中に取り込むこととする。
WC	宮口委員	第2章等	「歴史」「文化」という言葉を使っているが、「いとなみ」「人のいきざま」といった言葉の方が適切ではないか。	第2章、第3章において、「歴史」「文化」という表現を「人々のいとなみ」として修正する。第3章はそれを踏まえて2つの基本的な考え方を1つにまとめる。
WC	永田委員	第1章	地元では昔から「原野」という言葉を使ってきた。地元の表現と併せて整理する必要がある	第1章の語句の整理を修正する。